



WAW!2022 コンセプトノート

(参考)女性とスタートアップを巡る現状と課題

不確実性が高い時代に成長をもたらす原動力の一つが起業です。年々多くの女性が起業しており、世界では起業する3人に1人が女性と言われます。しかし、女性による起業の多くは小売やサービス業を中心とする小規模ビジネスであり、建設、エネルギーといった規模の大きな産業では女性の参入がほとんど見られません。背景には多くの構造的、または文化的な障壁が存在しています。

例えば、資本、ノウハウへのアクセスは比較的限られます。また、女性が起業することについての理解が社会文化的に理解されず、そのために、人脈が構築しにくく事業機会や業界の情報を入手しづらい等のハードルに直面しています^(注1)。

課題山積の中、多くの女性起業家にとってハードルである資金調達の問題を解消するための取り組みが始まっています。2017年のG20サミットにおいて、途上国の女性起業家等が直面する資金アクセスや女性に不利な法制度等の課題克服を支援するため、女性起業家資金イニシアティブ(Women Entrepreneurs Finance Initiative: We-Fi)が立ち上げられました。

日本においても、起業したい女性とそれをサポートする支援者の情報交換・ネットワーク構築を目的とした支援事業が実施されています。また、地方公共団体も、関心のある方々への起業基礎講座や創業融資相談、マーケティング等の勉強会を開催する等、全国的に支援の枠組みが拡充してきています。事業計画のブラッシュアップ等の金融機関によるサポートも増えています^(注2)。

起業は、自らの関心を職業にし、また自ら決められる要素が多いという点で、結婚・出産等のライフイベントとの両立を可能にする働き方として、女性の経済活動の選択肢の一つです。また、女性の職業上の自己実現や経済的自立だけでなく、経済の活性化にもつながります^(注3)。多くの国で地方から都市への人口流出が問題となる中、女性の起業は、一つの解決策になり得るかもしれません。

国際女性会議 WAW!2022 では、女性による起業をめぐる各国の現状や促進のための取り組みを共有しながら、より強力な支援策について議論を深めていきます。

(注1) [Global Entrepreneurship Monitor, “2020/21 Women’s Entrepreneurship Report: Thriving through Crisis”](#)

(英語)

(注2) [経済産業省, “女性起業家支援ノウハウ集”](#)

(注3) [同上](#)